

## 城壁の街ハラール イスラム教4番目の聖地

2010年2月 駐日エチオピア連邦民主共和国大使館



前回のグローバルで日本の地方自治体や都市の皆様にご紹介させて頂いたかと思ます。今回は日本との姉妹関係設立に関心を示しているエチオピアの一つの都市である城壁の街ハラールをご紹介します。

ハラールはハリ州の州都です。街はエチオピアの首都アディスアベバから526 km 離れたエチオピア東部の高原に位置しています。ハラールは7世紀から9世紀の間に築かれたと信じられています。街はエチオピアミレニアムのイヴに建造1000年記念を2007年6月にお祝いしました。

ハラールはエチオピアの内陸地域やアフリカの角全体との貿易キャラバンにつながっている活発な商業のセンターです。港から世界につながっている街でもあり国際貿易を促進するため独自の貨幣を鑄造していました。一方、82のモスクが存在し、うち10世紀に遡るモスクが3つと102の寺院があり、ハラールはイスラム文化と宗教の重要な地であり、このことからメッカ、メディナ、エルサレムに次ぐイスラム教4番目の聖地として考えられています。

16世紀にハラールの首長 ヌル イブン ムジャヒドが街を取囲む守備の壁を建設し、現地の言葉でジュゴルとしてよく知られています。当時、ハラールの出入りは城壁の街の異なった角に設置された5つの門を通してから許されていました。この歴史的な大建築物は未だに残され、街のシンボルとなっています。文化、建築、素晴らしい人間居住としての重要性の認識から、UNESCOは2006年に世界遺産都市としてハラールジュゴルを登録しました。

ハラールの人々は独自の文化や伝統を持っています。ハリ地域社会で、結婚、葬儀やその他の儀式のような異なった社会行事はハリ文化や伝統で重要な位置をしめます。中でも重要なのは、ハリ女性がハリアイデンティティ保護の欠かせない役割を果たしています。カラフルな伝統衣装はハリユニークな文化と伝統の特徴を持っています。ハリ女性はまた、様々な社会行事で使われる街で名高いかご細工品を作ることで知られています。

ハリの人々は街で卓越していますが、また様々な文化や信条のつぼであり、住民はエチオピアの異なった地方の様々な人々を代表しています。街の調和や真の多様性の認識で、ハラールはまたUNESCO都市2002-2003平和賞を受賞しました。

ハリの人々は社会的で海外の人々を手厚くもてなします。ハラールは海外からの旅行者に提案する多くの魅力を持っています。ハラールジュゴル、ジャミモスク、メドハネ・アレム大聖堂、ランボーハウス、ラス・メコネンハウスやその他の歴史的建造物は街の景勝地です。街の郊外にあるクンド山は野生馬が住んでおり観光の魅力のひとつです。ハイエナマンは夜に街の外に住んでいるハイエナに肉を与えるショーで観光客を驚かせます。ハラールは街の名前がついたエチオピアの有名なコーヒーブランドの一つとしても知られています。

城壁の街ハラールは過去数年で大きな変化を遂げています。世界様々な地に住んでいるハリ離散の活動的な参加で、街は投資活動の高まりを経験しています。ハラールは国際空港や鉄道駅が近くにあるディレタワから車で一時間のところにあります。街は高速でアディスアベバにも相互接続されています。

ハラールは経験を共有し文化交流を育むため、日本との姉妹都市関係設立に強い意欲を示しています。日本も実に多くの世界遺産都市を有し、ハラールのようなユニークな文化や伝統を示しています。そのことから、ハラールを日本の一都市間で姉妹関係を設立することは、文化遺産保護の経験共有を促進するだけでなく、エチオピアと日本の人々のよりよい理解を作り出すことに大きく貢献することでしょう。

